

—— 第 32 回学術大会報告 ——

一般社団法人日本老年歯科医学会第 32 回学術大会報告

一般社団法人日本老年歯科医学会第 32 回学術大会は、2021 年 6 月 11 日（金）から 13 日（日）の 3 日間と、オンデマンド期間として 6 月 14 日（月）から 30 日（水）の約 2 週間 Web で開催された。メインテーマを「人生 100 年時代に老年歯科医学ができること」とさせていただいた。大会長 河相安彦（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座教授）、準備委員長 平野浩彦（東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科部長・研究所研究部長）、準備副委員長 伊藤誠康（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座講師）、実行委員長 武部 純（愛知学院大学歯学部有床義歯学講座教授）、実行副委員長 枝広あや子（東京都健康長寿医療センター研究所）と主幹の日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座の担当で準備と当日の運営が行われた。

また、今回は 2 年に一度の日本老年学会の合同開催の年であり、名古屋で開催する予定であった第 32 回日本老年学会（総会）、第 63 回日本老年医学会学術集会、第 63 回日本老年社会学会大会、第 44 回日本基礎老化学会大会、第 20 回日本ケアマネジメント学会研究大会、第 26 回日本老年看護学会学術集会との共催であった。

第 32 回日本老年学会（総会）会長の井口昭久先生（名古屋大学名誉教授・愛知淑徳大学教授）から「成熟社会への課題—高齢者は幸福になったか—」と題した会長講演があり、現在の日本では「これが今の老人だ」という典型的な老人のイメージ像がな

く、現代の老人の変化を画一的に論ずることはできないが、確実に変わったことは社会制度の変化であること、そして社会制度の改革によって高齢者の生活が改善されたことは間違いないが、年齢差別の助長などの問題もあり、「現代の老人は幸せになったか」という点について議論を深めていくべきとのメッセージが発せられた。同総会では複数の分科会の演者が講演を行う合同シンポジウム 17 題が開催され、老年歯科では 3 題を主幹し、15 題について本会より演者を派遣した。また、合同ポスター発表へは本会より 3 題を推薦した。日本老年学会（総会）において、多職種の参加者に対して歯科の存在



大会ポスター



東京会場運営スタッフ



名古屋会場運営スタッフ



特別講演（講師：ソコロワ山下聖美先生）



教育講演（講師：DRs Mili Doshi and Vicki Jones）

感を示すことができたのではないだろうか。

日本老年歯科医学会第32回学術大会としてのプログラムは、特別講演1題、教育講演1題、特別シンポジウム1題、国際シンポジウム1題、歯科衛生士シンポジウム1題、委員会シンポジウム7題、愛知県医師会・歯科医師会ジョイントシンポジウム1題、スポンサードセッション5題、課題口演10題、一般口演20題、優秀ポスター発表15題、一般e-ポスター発表87題、認定医審査ポスター発表31題、摂食機能療法専門歯科医師審査ポスター発表9題、摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター発表33題であった。学会参加者が聴講できるライブ発表と審査を実施したが、表彰委員会、認定制度委員会の各委員会の委員長ならびに委員、幹事の皆さまの多大なるご協力の賜物である。

特別講演では、「食のアーティスト・宮沢賢治～本当の食べものを求めて～」と題してソコロワ山下聖美先生（日本大学芸術学部文芸学科）にご講演をいただいた。教育講演では、「Oral health of older people in the United Kingdom and the impact of COVID-19」と題して British Society of Gerodontology の Vicki Jones 先生と Mili Doshi 先生にご講



Meet the President の案内

キキ（長寿の喜寿から喜喜）

もも（長寿の百寿から百）



閉会式にて名前が公表された学会公式キャラクター

演いただいた。超高齢社会という時代と大会テーマに合致した講演は、いずれも多くの視聴者のご参加をいただき盛況であった。各シンポジウムでも熱のこもった講演や白熱したディスカッションが繰り広げられた。

今回、コロナ禍のなかで第31回からおおよそ半年の間隔で2大会連続のWeb開催となった。第31回のWeb開催の実績を踏まえてその利点を伸ばすべく、【Webだけに、いつでも、「ど・こ・か・ら・で・も」】、そして【Webだけど、「一体感を、そしてインタラクティブに】を目指した仕組み構築に取り組んだ。その新たな取り組みの一つとして、「Meet the President：理事長とランチ & しゃべり場-ON LINE」としてラジオ風にライブブロードキャストを行い、308名が昼の休憩時間の理事長と多職種の皆さまとの交流に耳を傾けた。また会期中に「#JSG21」に寄せられたツイートが200件以上となり、まさに学会会場で交流をしているかの錯覚を感じるものであった。「一体感を、そしてインタラクティブに」を少しでも味わえたのではないだろうか。期間後のオンデマンド配信は、見逃しの確認はもとより、気になるシンポジウムなど、資料を

見ながらゆっくり再視聴できるなどの前向きな意見を SNS 上で聞くことができた。大きな会場を歩き回ることなく、Web だけに、いつでも、「ど・こ・か・ら・で・も」を体感できたのではないだろうか。

おかげさまでもち、1,660 名を超える皆さまに参加登録をいただいたことに感謝を申し上げる次第である。振り返れば Web での開催の利点を生かした実りの多い大会となったと実感でき、成功裡に閉会することができた。これも開催準備から当日の運営、事後のオンデマンドにいたる期間において、座長、演者の皆さま、各委員会、関係者の皆さま、ご

参加の皆さまと後援団体・企業さまのご支援の賜物である。なお、第 32 回日本老年学会（総会）全体の参加者数は 7,500 名であり、老年学および老年歯科医学への関心が益々高まっていることを改めて実感した次第である。今回不慣れななかでの開催のためご迷惑をおかけした点多々あったことをお詫びし、改めて皆さまに御礼を申し上げるとともに、今後の本会の益々の発展を祈念する所存である。

一般社団法人日本老年歯科医学会第 32 回学術大会
大会長 河相安彦
(日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)